

派遣大会名	東日本大震災復興支援 第67回全日本大学バスケットボール選手権大会		
派遣報告者	田中 充 (名寄地区)	派遣先	東京都(国立代々木競技場第二体育館 他)
派遣期日	平成27年11月24日 ~ 平成27年11月25日 (2日間)		

審判会議・その他レクチャーなどの内容	
審判会議の開催はなし	

担当ゲーム①

担当日	11月24日	対戦カード	早稲田大学 vs 日本経済大学 (男子1回戦)
R/U	R	相手審判	U…宇田津 浩史 氏(愛知 A)
ゲーム感想(カンファレンス内容・ゲーム展開・ゲームを通じて感じたこと など)			
カンファレンスでは2人の視野が重ならないようにすること、日本経済大のセネガル人の対応、早稲田大の手の使い方をお互いに情報共有してゲームに入った。ゲームは早稲田大の激しいディフェンスで日本経済大のオフェンスが上手く機能せず、点差が離れていった。ただ、日本経済大も巻き返しを図ろうと最後までアグレッシブに守ってきた。特に大きなトラブルもなくゲームは進んだが、第4ピリオドに入って触れ合いの質が変わったときに両審判とも対応がほんの少し遅れてしまったことにより、若干、それまでには見られなかったハードコンタクトが増えてしまったことに、ゲームをまとめきれない力不足を感じた。			
主任・講師・相手審判などからのアドバイス			
＜日本協会評価委員・中山氏より＞ 途中までは余計な笛もなくしっかり対応していたが、最後のまとめ方が不安定だった。2人で必要なものが鳴らず、逆にいらぬところで笛が鳴っている。余計なことを考えずに素直に対応した方が良かった。			

担当ゲーム②

担当日	11月25日	対戦カード	鹿屋体育大学 vs 筑波大学 (女子2回戦)
R/U	U	相手審判	R…吉田 憲生 氏(埼玉 AA)
ゲーム感想(カンファレンス内容・ゲーム展開・ゲームを通じて感じたこと など)			
カンファレンスでは、ベンチからのアピールを想定して警告を与える場面や必要に応じてテクニカルを適用する場面などを確認。筑波大のインサイドに対する守り方と、鹿屋体育大のディフェンス時の手の使い方に気をつけることも確認した。ゲームは力のある筑波大に対して鹿屋体育大が激しいディフェンスで追いつける展開。特に難しいケースはなく淡々と判定していたが、ゲーム序盤に自分のエリアで、ノーコールで判定したものに対して早速アピールがあり、もっとはっきり対応した方が良かった。その結果、ゲームを通じて判定はしているが、どこかでベンチからの信頼感が薄らぐ姿になっていたと思う。もっとコート上の強さを身につけなければならないと感じた。			
主任・講師・相手審判などからのアドバイス			
＜日本協会評価委員・中山氏より＞ 自分のエリアをもっと踏み込んで判定することが必要。それによってもっと見えてくるものがある。 ＜相手審判・吉田氏より＞ もっと良いタイミングで自分のエリアを判定すること。判定が遅いと集中力が無いように捉えられる。			

大会・派遣を通じてのまとめ
ここ何年かインカレには参加させていただいているが、主審で男子の割り当ては初めてだったので、それなりに責任を感じてゲーム臨むことができた。ただ、ゲーム感想にもあるように最後のまとめ方で、何となくコート上で判定しており、点差云々に関係なく最後まで色々なケースを想定していなければならないということを感じた。翌日は女子の2回戦、今大会優勝した筑波大学のゲームであった。両チームともベンチからのアピールがあるということは理解していたが、対応の仕方がまだまだ弱く、つけている隙を与えていた間が残った。当然のことではあるが、判定の所だけ頑張ってもダメでベンチも含めたゲームの管理にまだまだ力不足であるということが改めて認識できた。今後はこの経験を次につなげるために、より具体的なゲーム管理能力を身につけていかなければならないと感じている。 最後に、今年度も派遣にご協力いただいた北海道協会及び名寄地区協会の皆様にお礼申し上げ、派遣報告とさせていただきます。